

フランス語圏舞台芸術・文献目録 (2014)

北原まり子・堀切克洋（編）

1. 著作・翻訳

一般書

中村亮二（編）『神々の世界から市民社会の幕開けまで 文学上演篇Ⅰ』「芸術教養シリーズ13」幻冬舎、2014年

——『ロマン主義の胎動から世紀末まで 西洋の芸術史 文学上演篇Ⅱ』「芸術教養シリーズ14」幻冬舎、2014年

森山直人（編）『20世紀の文学・舞台芸術 近現代の芸術史 文学上演篇Ⅰ』「芸術教養シリーズ15」、幻冬舎、2014年

——『メディア社会における「芸術」の行方 近現代の芸術史 文学上演篇Ⅱ』「芸術教養シリーズ16」幻冬舎、2014年

小畑精和『カナダ文化万華鏡『赤毛のアン』からシルク・ドゥ・ソレイユへ』明治大学出版会、2013年

芳賀直子『バレエ・ヒストリー：バレエ誕生からバレエ・リュスまで』世界文化社、2014年

渡辺真弓『世界のバレエ学校：誕生から300年の歴史』新国立劇場運営財団情報センター、丸善出版、2014年

——『チャイコフスキー～三大バレエ～：初演から現在に至る上演の変遷』新国立劇場運営財団情報センター、丸善出版、2014年

アイヴァ・ゲスト『パリ・オペラ座バレエ』鈴木晶訳、平凡社、2014年

高木まさき（監修）『アンナ・パブロワ：世界にバレエを伝道した舞姫（時代を切り開いた世界の10人）』学研教育出版、2014年

セルゲイ・グリゴリエフ『ディアギレフ・バレエ年代記1909-1929』森瑠依子ほか訳、平凡社、2014年

国立新美術館、TBS テレビ（編）『バレエ・リュス展：魅惑のコスチューム』TBS テレビ、2014年

薄井憲二（総監修）、芳賀直子（監修）『兵庫県立芸術文化センター薄井憲二バレエ・コレクション：目録第3巻（アンティーク・プリント・手紙・サイン・切手他）』、2014年

日本舞台芸術振興会（編）『東京バレエ団50年のあゆみ』日本舞台芸術振興会、2014年

西尾智子『舞い上がれ華：能とバレエ和洋二つの「舞」をプロデュースして』文理閣、2014年

山田治生（編）『バロック・オペラ：その時代と作品』新国立劇場運営財団情報センター、丸善出版、2014年

岸純信『オペラは手ごわい』春秋社、2014年

辻昌宏『オペラは脚本から』明治大学出版会、丸善出版、2014年

Yukie Mase et Catherine Nier (dir.), *Le Théâtre de Giraudoux, un mégaphone pour les vivants et les morts, Cahiers Jean Giraudoux, n° 39*, Clermont-Ferrand : Presses universitaires Blaise Pascal, 2012
Florence de Chalonge, Yann Mével, Akiko Ueda, *Orient(s) de Marguerite Duras*, Amsterdam ; New York : Rodopi, 2014

Pascal Griolet et Jean-Michel Butel (éd.), *Cipango – Cahiers d'études japonaises, Nouveaux regards sur les arts de la scène japonais I*, Paris : Langues O', 2013

Jean-Jacques Tschudin, *L'éblouissement d'un regard : découverte et réception occidentales du théâtre japonais de la fin du Moyen âge à la Seconde guerre mondiale*, Toulouse : Anacharsis, 2014

Edith Montelle, *La boîte magique : le théâtre d'images ou kamishibai : histoire, utilisations, perspectives*, Strasbourg : Callicéphale éditions, 2014

研究書・評論

秋山伸子『フランス演劇の誘惑：愛と死の戯れ』岩波書店、2014年

伊藤洋、皆吉郷平、浅谷真弓、橋本能、鈴木美穂、富田高嗣、榎本恵子、野池恵子、戸口民也『混沌と秩序：フランス十七世紀演劇の諸相』中央大学出版部、2014年

村山則子『ペローとラシーヌの「アルセスト論争」：キノー／リュリのオペラを巡る「驚くべきもの le merveilleux」の概念』作品社、2014年

- 阿尾安泰『18世紀フランスにおける演劇モデルによる知の構築』平成23年度-平成25年度科学研究費助成事業研究成果報告書、2014年
- 梅野りんこ『オペラのメディア：近代ヨーロッパのミソジニー』水声社、2014年
- 原大地『マラルメ不在の懐胎』慶應義塾大学出版会、2014年
- 小田中章浩『モダンドラマの冒険』和泉書院、2014年
- 熊木淳『アントナン・アルトー 自我の変容——〈思考の不可能性〉から〈詩への反抗〉へ』水声社、2014年
- 岡室美奈子（監修）『サミュエル・ベケット：ドアはわからないくらいに開いている』早稲田大学演劇博物館、2014年
- 藤井慎太郎（監修）、F/Tユニバーシティ、早稲田大学演劇博物館（編）『ポストドラマ時代の創造力：新しい演劇のための12のレッスン』白水社、2014年
- 宮信明、大久保遼（編）『演劇と演劇性：日仏共同国際シンポジウム』早稲田大学演劇映像学連携研究拠点、2014年
- ミシェル・レリス『オペラティック』大原宣久、三枝大修訳、水声社、2014年

翻訳その他

- フェルナン・レジェ『サーカス』田村奈保子訳、『行政社会論集』第23号、福島大学行政社会学会、2010年、pp. 61-82
- ルイ・ジュヴェ『「肉体を離脱した俳優」序文』間瀬幸江訳、2014年（*）
- 「ジャン＝ルイの記憶によせて」間瀬幸江訳、2014年（*）
- ジャン＝ルイ・バロー「Ch. グランヴァル」間瀬幸江訳、2014年（*）
- 『飢え』間瀬幸江訳、2014年（*）
- 「アントナン・アルトー」堀切克洋訳、2014年（*）
- アントナン・アルトー「ルイ・ジュヴェへの手紙」堀切克洋訳、2014年（*）
- 「ジャン＝ルイ・バローへの手紙」堀切克洋訳、2014年（*）
- セルジュ・リファール「振付家の宣言」北原まり

子訳、2014年（*）

2. 学術論文

中世・17世紀・18世紀

- イリニ・ツアマドゥ＝ジャコベルジェ「ギリシア起源の語を通して考える演劇性概念」宮脇永吏訳、『演劇と演劇性』、2014年、pp. 113-124
- ダルウィン・スミス「フランスの演劇伝統における文書の位置：十三世紀から十六世紀まで」黒岩卓訳、『演劇と演劇性』、2014年、pp. 21-27
- 黒岩卓「アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』におけるアダムの描写について」『トラウマと喪を語る文学』中里まき子編、朝日出版社、2014年、pp. 119-126
- 「十五・十六世紀における劇テキストの写本とその使用：アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』H写本（Paris, BnF, fr. 1550）の例」『演劇と演劇性』、2014年、pp. 29-44
- 川那部和恵「フランス15~16世紀の『患者演劇』における笑いの衣装：その批評性をめぐって」『東洋法学』58巻2号、東洋大学法学会、2014年、pp. 188-176
- 友谷知己「アルディ『血の力』に於ける脚色の様態」『仏語仏文学』第40号、関西大学、2014年、pp. 11-33
- 橋本能「二つの『ティット』：ル・ヴェールとマニョン」『人文研紀要』第79号、中央大学人文科学研究科、2014年、pp. 1-16
- 小倉博孝「ラシーヌの悲劇世界の誕生（2）：ロトルー『アンティゴヌ』（1637）からラシーヌ『ラテバイッド』（1664）へ」『上智大学仏語・仏文学論集』第49号、2014年、pp. 1-20
- 鈴木彩絵「涙と血：ラシーヌ『ベレニス』の悲劇性を創造する2つの詩的言語」『Les Lettres françaises』第34号、上智大学フランス語フランス文学会紀要編集委員会、2014年、pp. 15-28
- 大田文代「ラシーヌ『フェードル』におけるレトリック：「テラメーヌの語り」の構造をめぐって」『人間文化研究科年報』第30号、奈良女子大学大学院人間文化研究科、2014年、pp. 25-37

- 畠山香奈「トリスタン・レルミット『マリアヌ』とジャン・トローレ『コスロエス』における夢と狂気の位置づけ」『関東支部論集』第22号、仏文学会、2013年、pp. 47-60
- 「アンドレ・ダシエ訳アリストテレス『詩学』におけるあやまちの概念について」『関東支部論集』第23号、仏文学会、2014年、pp. 85-97
- 竹垣江梨子「マリヴォーの戯曲における『人間嫌い』」『関西フランス語フランス文学』第20号、2014年、pp. 51-62
- 奥香織「マリヴォーにおける『露呈』の演劇性」『演劇と演劇性』、2014年、pp. 71-80
- 「ルサーージュの初期作品にみるアルルカンの表象」『西洋比較演劇研究』第14巻2号、2014年、pp. 29-40
- 19世紀・20世紀**
- 松村悠子「テオドール・ド・バンヴィルにおける劇作術：1850-1870年における空想演劇（Dramaturgie de Théodore de Banville : le théâtre de la fantaisie des décennies 1850-1870）」『フランス語フランス文学研究』第105号、仏文学会、2014年、pp. 95-111
- 大出敦「空疎な神々：ステファヌ・マラルメ『古代の神々』試論」『教養論叢』第135号、慶應義塾大学法学研究会、2014年、pp. 71-104
- 坂口周輔「神話を相続する：マラルメとハムレット」『言語情報科学』第12号、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、2014年、pp. 163-179
- 合田陽祐「アルフレッド・ジャリの『砂時計覚書』を読む：テキストとイメージの関係を中心に」『慶應義塾大学日吉紀要 フランス語フランス文学』第59号、2014年、pp. 67-94
- 「アルフレッド・ジャリによる科学的言説の受容について：『パタフィジック学者フォストロール博士の言行録』の場合」『Les Lettres françaises』第34号、上智大学フランス語フランス文学会紀要編集委員会、2014年、pp. 29-40
- 「催眠術師のオイディプス：アルフレッド・ジャリの『絶対の愛』再読」『上智大学仏語・仏文学論集』第48号、2014年、pp. 83-98
- 近藤美紀「『ユビュ王』における語りについて」『関東支部論集』第22号、仏文学会、2013年、pp. 111-126
- 佐原怜「アルフレッド・ジャリにおける映画的時間（Le temps cinématographique chez Alfred Jarry）」『フランス語フランス文学研究』第104号、仏文学会、2014年、pp. 119-133
- 岡本夢子「Le Chat Noirにおける総合芸術の具現化：影絵劇『聖アントワヌの誘惑』にみる新しさ」『関西フランス語フランス文学』第20号、関西大学、2014年、pp. 3-14
- 袴田紘代「19世紀フランスにおける美術と演劇の交差：挿絵入り演劇プログラムの研究」『鹿島美術財団年報』第32号、鹿島美術財団、2014年、pp. 448-459
- 真野倫平「グラン＝ギニョル劇における異境のイメージ：ロルド、モレル『究極の拷問』における中国像」『南山大学ヨーロッパ研究センター報』第20号、2014年、pp. 1-16
- 長野順子「セルフポートレートと演劇性：クロード・カーンと前衛劇の交差」『美学芸術学論集』第10号、神戸大学芸術学研究室、2014年、pp. 6-23
- 西野絢子「ポール・クローデル『1914年降誕祭の夜』：鎮魂の劇として」『藝文研究』第107号、慶應義塾大学藝文學會、2014年、pp. 180-162
- 上杉未央「ポール・クローデル『縞子の靴』における宣教」『関東支部論集』第22号、仏文学会、2013年、pp. 99-110
- 内田智子「シャルル・デュランと仮面：東西の文化圏とその先を目指して」『演劇映像学2013』、早稲田大学演劇博物館、2014年、pp. 85-97
- 永田道弘「脱演劇の二つの回路：『アフリカの印象』と『田舎司祭の日記』の翻案をめぐって」『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』第51号、2014年3月、pp. 59-69
- 堀切克洋「救済としてのカタストロフ：メーテルランクとアルトーの決定論的演劇をめぐって」『レゾナンス』第8号、東京大学大学院総合文化研究科、2014年、pp. 64-73
- 間瀬幸江「テキストと挿絵との対話：小説『ベラ』の場合」『演劇と演劇性』、2014年、pp. 81-89
- イザベル・レック「演劇性と喪の儀式 — ガリシ

- アの「あたらしい演劇 (Nuevo teatro)」宮脇永吏訳、『演劇と演劇性』、2014年、pp. 125-136
- 大谷理奈「ジャン・アヌイの戯曲における死の表象：生者のための死」『Cahiers d'études françaises Université Keio』19号、2014年、pp. 64-79
- 岡室美奈子「瓦礫の上で待ちながら：ベケットと共生の思想」『文学』2014年3・4月号、岩波書店、pp. 2-15
- 菊池慶子「ライトモチーフとしての無意志的記憶：サミュエル・ベケット『プルースト』における生・死・芸術」『表象・メディア研究』第4号、早稲田表象・メディア論学会、2014年、pp. 27-43
- 木内久美子「初期ベケットにおける『擬人化』の問題：『剽窃』の模倣の実践から『擬人化』批判へ」『Polyphonia : FLC 言語文化論集』第6号、東京工業大学 FLC 言語文化研究会、2014年、pp. 21-52
- 戸丸優作「『一人称の主題による変奏曲』：サミュエル・ベケットの一人称語りの探求について」『言語情報科学』第12号、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、2014年、pp. 215-231
- 武田はるか「サミュエル・ベケットの『クワッド』における沈黙の声」『関東支部論集』第22号、仏文学会、2013年、pp. 155-166
- 八木斉子「ベケットから音響操作へ：『言葉と音楽』『カスカンド』などのラジオ劇をめぐって (From Beckett to the Engineered Sound: *Words and Music, Cascando, and Other Plays for Radio*)」『演劇研究』38号、早稲田大学演劇博物館、2014年、pp. 83-94
- 藤原曜「サミュエル・ベケットの『ソロ』における見えるものと聞こえるもの (Le visible et l'audible dans Solo de Samuel Beckett)」『フランス語フランス文学研究』第104号、仏文学会、2014年、pp. 135-150
- 山崎健太「分かつことの両義性：サミュエル・ベケット『モノローグ一片』論」『早稲田大学大学院文学研究科紀要 (第3分冊)』第60号、早稲田大学大学院文学研究科、2014年、pp. 101-115
- 「サミュエル・ベケット『わたしじゃない』上演における観客の知覚について」『表象・メディア研究』第4号、早稲田表象・メディア論学会、2014年、pp. 73-90
- 「反復する死、あるいは生——サミュエル・ベケット『ロッカバイ』試論」『演劇映像学2013』早稲田大学演劇博物館、2014年、pp. 113-124
- 堀田敏幸「ベケット、殺害への意志」『愛知学院大学論叢』第61号、愛知学院大学教養教育研究会、2014年、pp. 17-33
- 「ベケット、放浪の魂」『愛知学院大学論叢』第62号、愛知学院大学教養教育研究会、2014年、pp. 1-20
- 「ベケット、明日なき真実」『愛知学院大学語研紀要』第39号、愛知学院大学語学研究所、2014年、pp. 3-24
- 秋元陽平「ロラン・バルト、演劇を巡る愛と幻滅 (1)：1950年代、距離を巡って」『仏語仏文学研究』47号、東京大学仏語仏文学研究会、2014年、pp. 105-121
- 林栄美子「舞台上に上った「ヌーヴォーロマン」：演劇作品『ヌーヴォーロマン』をめぐって」『慶応義塾大学日吉紀要』第58号、2014年、pp. 97-116
- 佐藤朋子「情動的効果の場：『オイディプス王』をめぐるディディエ・アンジューとジャン＝ピエール・ヴェルナンの論争(1966年-1970年)とその争点」『関東支部論集』第23号、仏文学会、2014年、pp. 215-228
- 大坪裕幸「ドゥルーズと(反)メタ演劇：プレヒトの読みかえを基軸にして」『立教大学フランス文学』第43号、2014年、pp. 41-73
- 森田俊吾「アンリ・メシヨニックにおける演劇性の概念：翻訳行為と言語内身体の上演作用の関係について」『言語態』第14号、東京大学駒場言語態研究会、2014年、pp. 167-185
- 神崎舞「ロベール・ルパージュ作品における映像術」『ケベック研究』第6号、日本ケベック学会、2014年、pp. 51-67
- 藤井慎太郎「演劇とドラマトゥルギー：現代演劇におけるドラマトゥルギー概念の変容に関する一考察」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』

- 第60号、2014年、pp. 5-20
 ——「カタストロフィと演劇性」『演劇と演劇性』、2014年、pp. 137-144
- 關智子「『謎』による読者の能動性の喚起：ポストドラマ的テキストにおける特異性の分析の試み」『演劇映像学2013』、早稲田大学演劇博物館、2014年、pp. 125-141
- ジョゼット・フェラル「演劇的なものとパフォーマンス的なもの、その両者の間で」藤井慎太郎訳、『演劇と演劇性』、2014年、pp. 145-153
- カロール・エゲル「時間制に試される演劇性」穴澤万里子訳、『演劇と演劇性』、2014年、pp. 105-112
- ダンス研究・オペラ研究**
- 秋山伸子「17世紀フランスにおける音楽劇について：『アルミード』の場合」『文学』2014年3・4月号、岩波書店、pp. 54-68
- 川野恵子「J・G・ノヴェール『手紙』（1760）における独創性概念：自然としての個別的身体」『芸術学』第18号、三田芸術学会、2014年、pp. 52-66
- 讓原晶子「メネストリエのバレエ理論からみたノヴェール：『舞踏とバレエについての手紙』（1760）における借用を巡って」『美学』第65号、美学会、2014年、pp. 121-132
- 森本頼子「シェレメーチェフ家の農奴劇場（1775~97年）におけるトラジェディ・リリック上演の試み：領主ニコライとパリ・オペラ座の音楽家イヴァールの往復書簡を手がかりに」『音楽学』第60巻1号、日本音楽学会、2014年、pp. 78-91
- 田村和紀夫「ケルビーノが啓いた現実：ボーマルシェの原作から見たオペラ『フィガロの結婚』の革新性」『尚美学園大学芸術情報研究』第23号、2014年、pp. 53-63
- 星野聡「オペラ『ラ・ボエーム』のドラマと演奏法」『フェリス女学院大学音楽学部紀要』第14号、2014年、pp. 25-98
- 本間晴樹「さまよえる『仮面舞踏会』：歌劇『仮面舞踏会』の場面設定を巡って」『研究紀要』第38号、東京音楽大学、2014年、pp. 69-86
- 園田みどり「ジュゼッペ・ヴェルディのオペラ『マクベス』：パリ初演（1865）のための台本改訂について（続）」『研究紀要』第38号、東京音楽大学、2014年、pp. 87-107
- 若宮由美「ヨーゼフ・シュトラウスの〈ロメオとジュリエット〉：グノーのオペラに基づくポプリ」『埼玉学園大学紀要（人間学部篇）』第14号、2014年、pp. 75-87
- 伊集院元郁「上演の表象としてのドガ《E・F嬢の肖像、バレエ「泉」について》」『Aspects of problems in Western art history』第12号、東京芸術大学、2014年、pp. 51-61
- 塩田眞典「オペラ『カルメン』と制作者たち、およびその後のカルメン像の変貌」『大阪商業大学商業史博物館紀要』第15号、2014年、pp. 121-157
- 鈴木愛理「オペラにおける子どもたちの役割：ビゼー『カルメン』の場合」『弘前大学教育学部紀要』第112号、2014年、pp. 11-21
- 林栄美子「現代バレエ作品『カルメン』と闘牛のイメージ」『慶應義塾大学日吉紀要（言語・文化・コミュニケーション）』第46号、2014年、pp. 43-67
- 林信蔵「エミール・ゾラ、アルフレッド・ブリュノーのオペラ共作：『メシドール』『黄金の伝説』のバレエ音楽をめぐって」『仏文研究』第45号、2014年、pp. 5-16
- 澤田肇「テオフィル・ゴーチエと舞台芸術：ジゼルはどこに？」『女性学講演会』第17期、大阪府立大学女性学研究センター、2014年、pp. 79-106
- 村山上由美「マラルメとバレエの台本：『インド説話集』における舞踏場面について」『早稲田大学大学院文学研究科紀要（第2分冊）』第60号、2014年、pp. 113-126
- 森田玲子「ダンカン・ダンスの運動特性（その5）「ジムナスティックス」と「バー・ワーク」を中心に」『比較舞踊研究』第20号、2014年、pp. 22-32
- 大木裕子「ディアギレフのバレエ・リュス（2）：バレエ・リュスの活動」『京都産業大学総合学術研究所所報』第9号、2014年7月、pp. 119-142
- 北原まり子「『牧神の午後』（1912）以前のバレエ・

- リュスにおける絵画的舞台表象』『舞踊学』第36号、舞踊学会、2014年、pp. 1-8
- 伊藤雅子「アンドレ・レヴィンソンと20世紀ダンス」『舞踊学』第36号、舞踊学会、2014年、pp. 9-17
- 越智雄磨「フランスのコンテンポラリーダンスにみる支援政策の変遷：『8月20日の署名者たち』の活動を端緒として」『演劇研究』第38号、早稲田大学演劇博物館、2014年、pp. 21-39
- 寺尾恵仁「パラドックスの演技論：ジェローム・ベル + Theater HORA 『Disabled Theater』上演分析」『藝文研究』第106号、慶應義塾大學藝文學會、2014年、pp. 296-315
- 小林佐知子「図形楽譜づくりにおける個の思考過程の展開と環境とのかかわり：バレエ組曲《火の鳥》より〈終曲〉を教材にした6年生の実践分析を通して」『学校音楽教育研究』第18号、日本学校音楽教育実践学会、2014年、pp. 133-134

文化政策

- 小畑精和「フランス語圏におけるケベック文化政策の影響」『明治大学人文科学研究所紀要』第74号、2014年、pp. 32-35

日仏交流史・日仏比較文化論

- Jean-Jacques Tschudin, « Le kabuki s'aventure sur les scènes occidentales : Tsutsui Tokujirō sur les traces des Kawakami et de Hanako », *Cipango*, no.20, 2013, pp. 13-63
- Ian McArthur, « Le rakugo et Henry Black : Comment un Britannique conta la modernité à Meiji », *Cipango*, no.20, 2013, pp. 65-94
- Seiko Suzuki, « Le gagaku, musique de l'Empire : Tanabe Hisao et le patrimoine musical comme identité nationale », *Cipango*, no.20, 2013, pp. 95-139
- John Wan Suh, « Le théâtre nō dans la Corée colonisée : du nō comme théâtre d'État », *Cipango*, no.20, 2013, pp. 141-164
- Claude Michel-Lesne, « La question de la mixité dans le théâtre Takarazuka : jeux d'ombre et de lumière », *Cipango*, no.20, 2013, pp. 165-230

- ミシェル・ワッセルマン「退職記念講義 歌舞伎、オペラ、クローデル」『立命館国際研究』第26巻4号、立命館大学国際関係学部、2014年、pp. 617-626
- ブリジット・プロスト「講演録 20・21世紀のヨーロッパ演劇のハイブリッド化における日本：人文学部異文化交流研究施設第25回講演会」『異文化研究』第8号、山口大学人文学部、2014年、pp. 97-101

修士論文

- 森本裕衣「太陽劇団研究」（早稲田大学大学院文学研究科、2013年度）

博士論文

- 原口碧『15世紀フランス王国の宮廷文化における「東方」の表象：ヴァロワ朝ブルゴーニュ家・アンジュー家を中心に』（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科、2014年3月24日）
- 井上由里子『ヴァレール・ノヴァリナの詩学：未知の共同体へ』（大阪大学大学院文学研究科演劇研究室、2014年3月25日）
- 糟谷里美『バレエ振付演出家小牧正英（1911-2006）研究：バレエ・ルッスの日本への導入をめぐる』（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科、2014年3月24日）

3. その他（解説・評論・エッセイなど）

- 秋山伸子「フランク・カストルフ演出『ニーベルングの指環』を観て」『青山フランス文学論集』復刊23号、青山学院大学、2014年、pp. 5-17
- 石井達朗「ジゼル・ヴィエンヌ『マネキンに恋して』：官能と戦慄が錯綜する」『ダンスマガジン』2014年8月号、p. 78
- 「フィリップ・ドゥクフレ カンパニー DCA『パノラマ』：ローテクであるからこそ心惹かれる」『ダンスマガジン』2014年9月号、p. 83
- 岩田美喜「書評 岡室美奈子・川島健・長島確編『サミュエル・ベケット！ これからの批評』」『英文学研究』第91号、英文学会、2014年、pp. 83-86

- 大野和士、武田奈菜子「INTERVIEW Conductor フランス国立リヨン歌劇場引越し公演で『ホフマン物語』を指揮 大野和士 ヒューマニティー溢れるブリテン、音楽の未来を示したオッフェンバック：そのオペラの魅力」『音楽現代』2014年7月号、pp. 92-95
- 小田中章浩「フランス演劇 2013 シェローの死、アヴィニオン演劇祭の監督交代」『国際演劇年鑑 2014』、国際演劇協会日本センター、2014年、pp. 157-162
- 越智雄磨「ヌーヴェル・ダンス以後：コレオグラフィ概念の変異を巡る一つの作業仮説として」『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、pp. 21-23
- 桂真菜「人間の痛みを描き、生き延びる道を探る 作品群：パリ、マンハイムのテアター・デア・ヴェルト、シビウ国際演劇祭をめぐって（特集海外から学ぶ 2014）」『悲劇喜劇』2014年11月号、pp. 54-58
- 鹿瀬颯枝「ミュッセ生誕 200年記念国際シンポジウム：ミュッセティストたちの21世紀」『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、pp. 9-11
- 木内久美子「書評 川島健著『ベケットのアイランド』」『比較文学』第57号、日本比較文学会、2014年、pp. 138-142
- 北原まり子・堀切克洋（編）「フランス語圏舞台芸術・文献目録（2013）」『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、pp. 24-33
- 喜多尾道冬「ムーサの贈り物（253）ヒーローとヒロイン ユリシーズと彼をめぐるヒロインたち（その34）フォーレのオペラ『ペネロペ』」『レコード芸術』2014年7月号、pp. 11-13
- 黒岩卓「コピウーとラルドゥーのソチ（La Sottie de Coppieurs et Lardeurs）」、*Le théâtre français du Moyen Age et de la Renaissance : Histoire, textes choisis, mises en scène*, Paris : L'Avant-Scène théâtre, 2014, pp. 339-343
- 佐伯隆幸「シェローの死 または、ある同時代者の思い出」『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、pp. 6-8
- 「書評 秋山伸子著『フランス演劇の誘惑 愛と死の戯れ』」『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、pp. 16-17
- 塩谷敬「『ナンシー国際演劇祭』の頃」『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、pp. 3-5
- 關智子「ジル・ドゥクレール教授講演会記録 パトリス・シェロー演出のラシーヌ悲劇：『フェードル』における剣」『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、pp. 12-13
- 高萩宏「演劇の国際交流：海外公演から国際共同制作へ」『悲劇喜劇』2014年11月号、pp. 34-39
- 立木燐子「第34回モンペリエ・ダンス・フェスティバル報告～多様性と変化への風」『Theatre Arts』2014年10月25日更新 (<http://theatrearts.aict-iatic.jp/201410/2113/>)
- 「音楽とダンスの融合が生み出す圧倒的な祝祭性——東京バレエ団、モーリス・ベジャール・バレエ団共同制作・出演モーリス・ベジャール振付・演出ベートーヴェン『第九交響曲』」『Theatre Arts』2014年11月25日更新 (<http://theatrearts.aict-iatic.jp/201411/2258/>)
- 西田留美可「世界観を提示するダンス：シディ・ラルビ・シェルカウイ & ダミアン・ジャレ『バベル Babel (words)』」『Theatre Arts』2014年9月25日更新 (<http://theatrearts.aict-iatic.jp/201409/1971/>)
- 林正和「世界の演劇から ウィルソン旋風と多彩な演劇の力：パリ、フェスティバル・ドートンヌ（秋フェスティバル）2013」『シアターアーツ』第58号、2014年、pp. 88-95
- 原田広美「〈国際性〉豊かな作品のコアをひもとく～勅使河原三郎 KARAS + デュボン、シェルカウイ + Dance New Air 他」『Theatre Arts』2014年10月25日更新 (<http://theatrearts.aict-iatic.jp/201410/2063/>)
- 平野恵美子「文化：欧州が目を見張ったクラシック・バレエ（ロシアの論理）」『エコノミスト』2014年5月号、p. 103
- 藤井慎太郎「アヴィニオンに風が吹く——2014年のアヴィニオン演劇祭から」『Theatre Arts』2014年8月25日更新 (<http://theatrearts.aict-iatic.jp/201408/1879/>)
- 堀切克洋「トーキー以後、ブレヒト以前——1930年代フランスの舞台芸術環境をめぐって」早稲田大学演劇映像学連携研究拠点、pp. 1-6（*）
- 「現代芸術としての文楽：杉本文楽『曾根崎

- 心中』パリ公演をめぐって』『シアターアーツ』第57号、2014年、pp. 58-70
- 「ドキュメント的に、そして神話的に：ジャン＝ミシェル・ブリュイエル／LFKs『たった一人の中庭』をめぐって』『レゾナンス』第8号、東京大学大学院総合文化研究科、2014年、pp. 34-35
- 「光と闇とイデオロギー：ジョエル・ポムラの作品をめぐって』『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、pp. 17-18
- 「饗宴の外側にあるもの：ポツドール『愛の渦』パリ公演』『wonderland』2014年1月22日更新 (<http://www.wonderlands.jp/archives/25011/>)
- 「出口なき家族：ジョエル・ポムラ『うちの子は』』『Theatre Arts』2014年10月24日更新 (<http://theatrearts.aict-iatc.jp/201410/2069/>)
- 間瀬幸江「書評『敵を欺け：カモフラージュ技術と第一次世界大戦』』『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、p. 15
- 宮脇永吏「盲人たちと沈黙の声：ダニエル・ジャンストー演出『盲人たち』、古川日出男主催イベント「見えない波」』『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、pp. 19-20
- 森立子「あの人にこの質問を パトリック・ドゥヴォスさん』『舞踊学会ニューズレター』第6号、舞踊学会、2014年、pp. 3-7
- 柳下恵美「書評・紹介 鈴木晶著『オペラ座の迷宮：パリ・オペラ座バレエの350年』』『演劇映像』55号、早稲田大学、2014年、pp. 65-69
- 八木雅子「書評 ジョエル・ユトヴォル著『啓蒙の世紀の俳優たちと舞台衣裳：コメディ・フランセーズ所蔵フェッシュ & ヴイルスケールのミニチュール』』『日仏演劇協会会報』復刊第5号、2014年、p. 14
- Jean-Marc Adolphe, « Rayonnements d'un corps obscur » (大駱駝艦), *Mouvement : Arts et politiques*, Mai-Juin 2014 (« Changer d'Asie au rythme des décalages artistiques »), Paris, pp. 74-77.
- Ushio Amagatsu, Sonia Schoonejans, Sylvian Pagès « Ushio Amagatsu : le signe blanc », *Journal de l'adc : association pour la danse contemporaine*, no.64, décembre 2014, Genève, pp. 4-12.
- Aurélien Bory, Gwénola David, « Aurélien Bory : Poème métaphysique » (伊藤郁女), *Le Journal*, janvier-mars 2014, Paris : Théâtre de la ville, p. 20.
- Laurent Catala, « Ardent Magma » (にせんねんもんだい), *Mouvement : Arts et politiques*, Mai-Juin 2014 (« Changer d'Asie au rythme des décalages artistiques »), Paris, pp.78-81.
- Éric Demey, « Les Souffle des poèmes en fleurs » (Souffleurs commandos poétiques), *Mouvement : Arts et politiques*, Mai-Juin 2014 (« Changer d'Asie au rythme des décalages artistiques »), Paris, pp. 82-85.
- Alexandre Dmidoff, « Plexus : Kaori Ito par Aurélien Bory, plus ou moins l'infini », *Journal de l'adc : association pour la danse contemporaine*, no.64, décembre 2014, Genève, pp. 22-23.
- Jean-Pierre Thibaudat, « Un prisme cosmopolite : Kunio Shimizu, Yukio Ninagawa », *Le Journal*, novembre-décembre 2014, Paris : Théâtre de la ville, p. 8.
- Nicolas Villodre, « Videodanse : Kazuo Ohno, de Daniel Schmid, 1995, 15 minutes », *Mouvement : Arts et politiques*, Janvier-Février 2014, Paris, p.98-99.
- « My dinner with Michelle : Michelle Kokosowski (un non-entretien) » (坂東玉三郎), *Cassandra/Horschamps : Culture(s), Politique(s), Société(s)*, n°97, Printemps 2014, Paris, p. 74.

(*) 印で示したものは、早稲田大学演劇映像学連携研究拠点「演劇研究基盤整備：舞台芸術文献の翻訳と公開」のホームページにて一般公開されている(2014年3月27日更新)。リンク先は下記を参照 (<http://kyodo.enpaku.waseda.ac.jp/trans/>)。